

CASIO DT-930 C Language SDK GUI Version



DT-930 C Language SDK GUI Version を使用した、DT-930のアプリケーションプログラム開発の 概要(プログラムの開発、ダウンロード等)を、 開発の流れにしたがって説明します。



ご注意

- ●このソフトウェアおよびマニュアルの、一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- ●このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができま す。
- ●このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切の責任を負いかねますの でご了承ください。
- ●このソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更すること があります。
- ●このマニュアルの著作権はカシオ計算機株式会社に帰属します。
- ●本書中に含まれている画面表示は、実際の画面とは若干異なる場合があります。予めご了承ください。

© 2007 カシオ計算機株式会社

Microsoft, MS, ActiveSync, Active Desktop, Outlook, Windows, Windows NT, および Windows ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Microsoft 社の製品は、OEM 各社に、Microsoft Corporation の 100%出資子会社である Microsoft Licensing, Inc.によりライセンス供与されています。

変更履歴

バージョン	変更日付	ページ	内容
0.90	2007.01		新規作成
1.00	2007.01	2	開発環境を箇条書きに変更
\uparrow	\uparrow	2	開発環境の解説を追加
\uparrow	\uparrow	4	周辺機器に DT-964IO を追加
\uparrow	\uparrow	5	DT-964IOAをDT-964IO(A)に変更
\uparrow	\uparrow	7	LMWIN、MultiDrop 利用時の解説を分岐
\uparrow	\uparrow	10	拡張機能登録後のダイアログに変更
\uparrow	\uparrow	12	プロジェクト新規作成ダイアログに注意書きを追加
\uparrow	\uparrow	13	表示モード選択の解説を追加
\uparrow	\uparrow	14	拡張機能の選択にプリンタの正式名称を追加
\uparrow	\uparrow	16	アクティブ構成ダイアログに注意書きを追加
\uparrow	\uparrow	17-19	章立てを変更
\uparrow	\uparrow	19	ソースコード登録時の図を追加
↑	↑	21	ビルド時のツールバーを追加
\uparrow	\uparrow	25	エミュレータデバッグ時の図を追加
↑	↑	27	エミュレータと 10 シミュレータを分岐
\uparrow	↑	28	ローディングをインストールに変更
\uparrow	↑	29	エミュレータの図の位置を変更
\uparrow	↑	30	IO シミュレータの図を追加
\uparrow	\uparrow	31-33	IO シミュレータの図の位置を変更
\uparrow	\uparrow	34	デバッグの解説を追加
\uparrow	\uparrow	34	リモートビューワの図を追加
↑	\uparrow	35	通信機能の解説を追加
↑	\uparrow	37	マニュアルを解説書に変更
↑	\uparrow	37	フォントコンバータの機能解説を追加
\uparrow	\uparrow	43	LMWIN の機能解説を追加
\uparrow	\uparrow	51	MultiDrop の機能解説を追加
↑	\uparrow	2-5	エミュレータ動作環境(LAN 接続)の説明追加
↑	\uparrow	39-45	関数単位で実機との動作差異説明を追加
1.01	2008.12	49-65	フォントコンバータのバージョンアップにともなう内容修
			正

1.	はじめに	1
1.1.	概要	1
1.2.	開発環境·····	2
2.	アプリケーションの開発方法	8
2.1.	アプリケーションの開発準備	9
2.1.1.	周辺機器の用意	9
2.1.2.	ファイル転送ツールの登録	
2.1.3.	拡張機能の登録	
2.2.	アプリケーションの作成	
2.2.1.	eMbedded Visual C++ 4.0 の起動	
2.2.2.	アプリケーションウィザード	
2.2.3.	アプリケーションの作成/編集(新規アプリケーション)	
2.2.4.	アプリケーションの作成/編集(新規/既存共通)	
2.2.5.	アプリケーションの作成/編集(既存アプリケーション)	
2.3.	アプリケーションのビルド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	····· 26
2.3.1.	ビルド方法	26
2.3.2.	生成するオブジェクトの種類	28
2.4.	アプリケーションのデバッグ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
2.4.1.	デバッグ基本操作・・・・・・	
2.4.2.	エミュレータデバッグ	
2.5.	アプリケーションのインストール	
3.	エミュレータの使用方法	
3.1.	DT-930 エミュレーターーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	
3.1.1.	キー入力機能	35
3.1.2.	表示機能	35
3.1.3.	バーコード入力機能	35
3.1.4.	サウンド機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
3.1.5.	インジケーション機能	
3.2.	I/O シミュレータ	
3.2.1.	入力バーコードの登録	
3.2.2.	ローバッテリー発生/IOBOX 接続動作	
3.3.	実機とエミュレータの動作の違い	40
3.3.1.	デバッグ	40
3.3.2.	ドライブレター	40
3.3.3.	通信機能	•••••• 41
3.3.4.	システムファイル	•••••• 41
3.3.5.	副電池	•••••• 41
3.3.6.	バックライト/コントラスト	•••••• 41
3.3.7.	DT-700 互換表示モード	•••••• 41
3.3.8.	ユーザフォント/外字	•••••• 41
3.3.9.	関数インタフェース	
4.	その他の機能	49
4.1.	フォントコンパータ	49
4.1.1.	機能	51

112	面 贡 雄 战	52
4.I.Z.	画面情况	00
4.1.3.	使用方法	57
4.1.4.	注意事項	65
4.2.		66
4.2.1.	機能	66
4.2.2.	使用方法	66
4.3.	MultiDrop	73
4.3.1.	機能	73
4.3.2.	使用方法	73

1. はじめに

このたびは、CASIO DT-930 C Language SDK GUI Version をお買い上げありがとうございます。 本書は、DT-930のアプリケーション開発キット「DT-930 C Language SDK GUI Version」を使用して、アプリ ケーションの開発をするための手順を説明したものです。

1.1. 概要

OS として µ ITRON を搭載する DT-900 シリーズは、これまで Dos プロンプト上でコマンドラインを使用した CUI 環境でアプリケーション開発を行ってきましたが、本 SDK では、Microsoft eMbedded Visual C++4.0 (eVC)を使用することにより、下図のように、ビジュアルなマンマシンを持った GUI 環境での開発が可能と なります。

さらに、作成したアプリケーションを PC 上でデバッグ可能な、「Emulator」と「I/O シミュレータ」を搭載しており、これにより、アプリケーションのデバッグを効率良く行うことが可能となります。



1.2. 開発環境

アプリケーションを開発するためには、本 SDK の他に、下記の環境が必要となります。

開発環境	説明
ハードウェア(PC)	IBM/PC AT 互換機
OS	下記のいずれか
	Winsows2000 Pro SP4
	WindowsXP Pro SP2
	Windows2000 Server SP4
	 Windows Server2003 SP1
	Windows Vista
ソフトウェア	 Microsoft eMbedded Visual C++ 4.0
	 Microsoft eMbedded Visual C++ 4.0 SP4
	通信キット(下記のいずれか)
	● LMWIN Version6.13 以降
	• Multi DROP Version2.00 以降
ターゲットデバイス	DT-930

データ通信用の IOBOX やポケットプリンタ等のオプションデバイスに関しては、必要に応じて別途ご用意 ください。

また、DT-930 エミュレータを起動するには、少なくともひとつの仮想ネットワーク環境が必要です。使用されるコンピュータからネットワークをアクセスできない場合は、Microsoft Loopback Adapter をインストール 必要があります。以下に、MicrosoftLoopback Adapter のインストール方法を説明しますが、更に詳しい 情報は MSDN ライブラリで"loopback adapter"をキーに検索してください。

MicrosoftLoopback Adapter のインストール方法

DT-930 エミュレータはネットワーク環境で動作するように設計しています。しかし、出先でのデモンストレ ーションやデバッグなど、ネットワークがない環境でもエミュレータを動作させるには仮想ネットワークを用 意する必要があります。

仮想ネットワークの構築は簡単で、マイクロソフト製の仮想 LAN ボードである Loopback Adapter を以下の 手順に従ってインストールするだけです。なお、以下の手順は日本語版 Windows XP Professional で説 明していますので、それ以外の環境では適宜読み替えてください。

1. コントロールパネルを開き、「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。

🎐 コントロール パネル		
· ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に)	入り(金) ツール(① ヘルプ(田)	
🜀 戻る - 🌍 - 🏂 🔎 検索	🕞 אוואל 💷 ד	
: アドレス(型) 🔂 コントロール パネル		💉 🄁 移動
אים-אכב 😵	作業する分野を選びます	
▶ クラシック表示に切り替える	उर्दे नेत्रेत्रेम्ब्रेनेटन-२	
関連項目		<u></u>
🍓 Windows Update	愛夕 ネットワークとインターネット接続	「 「 「 」 ユーザー アカウント
 マリシヒコールパネルのその他のオ プション 	プログラムの追加と削除	●●● 日付、時刻、地域と言語のオブション
	サウンド、音声、およびオーディオ デバイス	きょうしょう エーザー補助のオプション
	<u> ۲۰۲۶ کرد کرد اور اور اور اور اور اور اور اور اور اور</u>	セキュリティ センター

2. 「ハードウェアの追加」をクリックします。



3. ハードウェアの追加ウィザードが開始したら、「次へ(N) >」をクリックします。

ハードウェアの追加ウィザード	
	ハードウェアの追加ウィザードの開始
	このウィザードで次のことを実行できます:
	 コンピュータに追加するハードウェアをサポートするソフトウェアをインスト ールする。
	 使用中のハードウェアに関連する問題のトラブルシューティングを実行 する。
	♪ ハードウェアにインストール CD が付いている場合は、[キャンセル] をクリックしてこのウィザードを閉じてから、製造元の CD を使ってこのハードウェアをインストールすることをお勧めします。
	続行するには、〕次へ] をクリックしてください。
	< 戻る(B) 次へ(W) キャンセル

4. 「はい、ハードウェアを接続しています(Y)」を選択して「次へ(N) >」をクリックします。

ハードウェアの追加ウィザード	
ハードウェアは接続されていますか?	
既にこのハードウェアをコンピュータに接続していますか?	
(< 戻る(B) 次へ(N) キャンセル

5. リストの一番下にある「新しいハードウェアの追加」を選択して「次へ(N)>」をクリックします。



6. 「一覧から選択したハードウェアをインストールする(詳細)(M)」を選択して「次へ(N) >」をクリックします。

ハードウェアの追加ウィザード
ウィザードで、ほかのハードウェアをインストールできます。
このウィザードで、ほかのハードウェアを検索して自動的にインストールすることができます。または、インスト ールするハードウェアのモデルがわかっている場合は、一覧から選択することもできます。
インストール方法を選んでください。
○ハードウェアを検索して自動的にインストールする(推奨)(S)
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

7. 一覧から「ネットワークアダプタ」を選択して「次へ(N) >」をクリックします。



8. 一覧から「Microsoft Loopback Adapter」を選択して「次へ(N) >」をクリックします。

ハードウェアの追加ウィザード	
ネットワーク アダプタの選択 ネットワーク アダプタを選択します	
ハードウェアに一致するネットワー	ク アダプタをクリックしてから [OK] をクリックしてください。このコンポーネントのイ [ディスク使用] をクリックしてください。
製造元 Microsoft	ネットワーク アダプタ: Sy Bluetooth Device(RFCOMM Protocol TDD) Sy Microsoft Loopback Adapter Sy Microsoft Tun Miniport Adapter
このドライバはデジタル署名されていまで ドライバの署名が重要な理由	す。 ディスク使用(出)…
	< 戻る(B) 次へ(W) > キャンセル

9. 以下のダイアログが出たら「次へ(N) >」をクリックします。



10. 以上で、Microsoft Loopback Adapter のインストールは完了です。



2. アプリケーションの開発方法

アプリケーションの開発は、下図のような流れで行います。 eVC のマンーマシンインタフェースを使用した開発となりますが、eVC に対する詳しい知識がなくても、簡 単にアプリケーションの開発ができることが特徴です。



2.1. アプリケーションの開発準備

本 SDK をインストール後、ライセンス登録を行い、開発環境(周辺機器等)を構築することにより、アプリケ ーションの開発準備が整います。

※ インストールおよびライセンス登録の方法は、「ファーストステップガイド」を参照してください。

2.1.1. **周辺機器の用意**

作成したアプリケーションを DT-930 にローディング するための IOBOX や、運用で使用 するポケットプリン タ等のオプション機器を用意してください。

本体	説明
DT-930M50	レーザスキャナ ベントモデル
DT-930M51	レーザスキャナ ストレートモデル
IOBOX	説明
HA-E60IO	USB クレードル
DT-960IO	ベーシック 1/0 ボックス
DT-964IOA/DT-964IO	サテライト 1/0 ボックス

充電器	説明
DT969CHG	リチウムイオン充電池専用充電器
リチウムイオン充電池パック	説明
DT-923LIB	リチウムイオン充電池パック

通信ケーブル	説明
DT-881RSC	DT-964IO(A)の RS-232C インターフェースとモデムを接続する時に使用しま
	す。
DT-882RSC	DT-964IO(A)の RS-232C インターフェースとパソコンを接続する時に使用しま
	す。
	(RS-232C コネクタ: D-sub25 ピン メス)
DT-883RSC	DT-964IO(A)の RS-232C インターフェースとパソコンを接続する時に使用しま
	す。
	(RS-232C コネクタ: D-sub25 ピン オス)
DT-887AX	DT-964IO(A)の RS-232C インターフェースとパソコンを接続する時に使用しま
	す。
	(RS-232C コネクタ: D-sub9 ピン オス)
DT-888RSC	DT-964IO(A)を複数台連鎖接続する時に使用します。
DT-782RSC	DT-960IOのRS-232Cインターフェースとパソコンを接続する時に使用します。
	(RS-232C コネクタ: D-sub25 ピン メス)
DT-783RSC	DT-960IOのRS-232Cインターフェースとパソコンを接続する時に使用します。
	(RS-232C コネクタ: D-sub25 ピン オス)
DT-787AX	DT-960IOのRS-232Cインターフェースとパソコンを接続する時に使用します。
	(RS-232C コネクタ: D-sub9 ピン オス)
DT-788RSC	DT-96010を複数台連鎖接続する時に使用します。
DT-810PR	赤外線インターフェース ポケットプリンター

ファイル転送ツール	説明
DT-UD7WIN32	通信キット:マルチドロップ (対応 I/O ボックス:DT-9601O)
DT-UD8WIN32	通信キット:LMWIN (対応 I/O ボックス:HA-E60IO / DT-964IOA)

※ 各オプションの使用方法に関しては、各々のマニュアルを参照してください。

2.1.2. ファイル転送ツールの登録

IOBOX を使用して、作成したアプリケーションを DT-930 にローディングするには、ファイル転送ツールの 登録が必要です。下記の手順で、登録しておくことにより、本 SDK の開発環境から直接、ファイル転送ツ ールを起動することが可能です。

(1) 環境設定

本 SDK をインストールすることにより表示されるツールバーの「環境設定」をクリックします。

🐕 Microsoft eMbedded Visual C++	
∬ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入(D) プロジェクト(P) ビルド(B) ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)	
12 😅 🖬 🖉 X 🖻 🖻 오 - 오 - 🛛 🗖 🛱 🐂	▼ ² #3
	- 🔍 👻 - ファイル転送 フォント変換 環境設定
Y Y Y	
▲ ■ ■ ■ ビルド (デバッグ) ファイルから検索1) ファイルから検索2/ ■ ■	

(2) ファイル転送ツールの選択

LMWIN または、MultiDrop の登録画面を表示したら、登録するツールの右側にあるボタンをクリックしてください。

1	^{葉境} 設定	×]
	ファイル転送	広張機能 ライセンス情報	
•	LMWIN:	【未登詠】	
	<u>M</u> ultiDrop:	<未登録>	
		OK キャンセル 適用(<u>A</u>)	

(3) ファイル転送ツールの登録

ファイル転送ツールをインストールしているフォルダを指定すると、選択したファイル転送ツールを表示します。

ツールを選択し「OK」をクリックすると登録が完了します。

• LMWIN を利用する場合

ファイルを開く				? 🗙
ファイルの場所型:	🗀 Imwin	•	+ 🗈 🖻	* 💷 *
Mwin32.exe				
	Imwin32.exe			開((_)
ファイルの種類(工):	アップダウンロード(LMWIN32.exe)		•	キャンセル

• MultiDrop を利用する場合

ファイルを開く		? 🗙
ファイルの場所①:		- 🔁 🖆 💷
Multi32jexe		
ファイル名(N):	multi32j.exe	開(()
ファイルの種類(工):	アップダウンロード(multi32j.exe)	 キャンセル

(4) 登録内容の確認

登録内容を確認し、「OK」ボタンをクリックしてください。

環境設定		\mathbf{X}
ファイル転送 打	広張機能 ライセンス情報	
LMWIN:	C¥Program Files¥CASIO To	ools¥Imwin¥Imwin
<u>M</u> ultiDrop:	C:¥Program Files¥CASIO To	
	OK 🔶 🎋	ャンセル 適用(<u>A</u>)

※2つ登録する必要はありません。ご利用になるファイル転送ツールのみを登録してください。

2.1.3. **拡張機能の登録**

DT-930 は拡張機能として OBJ や LIB を提供しており、アプリケーションにリンクすることによって、様々な 機能拡張が可能となります。以下の手順で、登録しておくことにより、本 SDK の開発環境に、拡張機能を 組み込むことが可能です。

(1) 環境設定

本 SDK をインストールすることにより表示されるツールバーの「環境設定」をクリックします。

🙀 Microsoft eMbedded Visual C++	
│ ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入(P) プロジェクト(P) ビルド(B) ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)	
12 😅 🖬 🕼 k 🖻 🕄 - 🗆 - 🖪 🗖 🗟 🐂	
	ペ ▼ ファイル転送 フォント変換 環境設定
メ 」 」 【■】 ビルF 〈デバッグ 〉 ファイルから検索1 〉 ファイルから検索2 /	

(2) 拡張機能の追加/削除画面

「拡張機能」のタブをクリックすると、拡張機能の追加/削除画面を表示します。



(3) 拡張機能の削除

削除したい拡張機能にチェックを入れ、「**削除**」ボタンをクリックすると、登録している拡張機能をすべて削除します。

この操作を行うと、登録している拡張機能のファイルと登録情報のすべてを PC より削除します。



(4) 拡張機能の登録

「追加」ボタンをクリックし、登録する拡張機能を格納しているフォルダを指定後、拡張機能の定義ファイル (xxxxxxx.exm)を選択してください。「開く」ボタンをクリックすると、選択した拡張機能を登録します。

ファイルを開く						[? 🗙
ファイルの場所①:	🗀 拡張機能Sample	•	¢	£	Ċ		
ADD_FUNC.exn							
							_
ファイル名(<u>N</u>):	ADD_FUNC.exm					開((())	
ファイルの種類(工):	拡張機能スペック(*.exm)		_	•		キャンセ	1

【拡張機能定義ファイルの書式】

例:ADD_FUNC.exm	
[MODULE]	:固定
Desc="拡張機能"	:一覧表示する際の表示内容を記述してください
Header=ADD_FUNC.H	:登録する Header ファイル名を記述してください
Link=ADD_FUNC.LIB	:登録する LIB または OBJ ファイル名を記述してください

※登録時は、必ず同一フォルダ内にすべての拡張機能ファイル(拡張機能定義ファイルも含めて)を入 れてください。

(5) 拡張機能の登録確認

登録が完了すると、追加した拡張機能を一覧に表示します。



2.2. アプリケーションの作成

2.2.1. eMbedded Visual C++ 4.0 の起動

本 SDK をインストールすると、「ファイル転送」「フォント変換」「環境設定」のツールバーが追加されます。 本 SDK を使用して作成したアプリケーションを使う場合は、そのワークスペースを開いてください。これは、 通常の eVC の操作と同等です。

🕺 Microsoft eMbedded Visual C++			
」ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入(D) プロジェクト(P) ビルド(B)	ツール田 ウィンドウW ヘルプ(出)		
12 🚅 🖬 🖉 🙏 🖬 🛱 🗅 · C · 🔽 🗖 🛱	demo	- in	
<u> </u>		- ファイル転送 フォント変換 環境設定	
	· ·		
 	ァイルから検索2 /		• •

2.2.2. アプリケーションウィザード

新規アプリケーションの作成、および、既存アプリケーションプログラムのソースコードの使用、どちらの場合でも、アプリケーションウィザードを使用することにより、簡単にビルド環境を構築し、プロジェクトを生成することができます。

このウィザードを使用した場合、DT-930の開発に最も適した環境を自動的に生成することが可能です。また、より詳細に細かな設定を行う場合は、ウィザード終了後に詳細設定※を行ってください。

※「プロジェクト(P)」>「設定(S)」を選択することにより、設定することができます。設定方法は、通常の eVCと同等です。

(1) プロジェクトの設定

「ファイル(<u>F</u>)」>「新規作成(<u>N</u>)」>「プロジェクト」を選択してください。

ここで、「CASIO モバイル ITRON アプリケーション」を選択し、任意のプロジェクト名を指定後、「OK」ボ タンをクリックしてください。

所規作成 「ファイル フロジェクト ワークスペース 」	× ••••	
I CASIO モルドイル ITRON アビリケーション MAGE Application (A) WOE ATL COM AppWicard (A) WOE Dramit-Link Library WWOE MFC ActiveX ControlWicard (A) WOE MFC AppWicard (GII) 気 WOE MFC AppWicard (exe) ⑤ WOE Static Library	フロジェクト名(0): pample (注意の) [DYMAOVILEADIVTEST¥sample 「新し、1ワークスペースを作成(8) 「現在のワークスペースを作成(8) 「低年間県(2): 「代目間県(2): 「いいのないので、 入れてください 「WM32 (WCE xx86)	クをい

(2) モジュール種類の選択

作成するプログラムの種類を選択してください。選択した内容に従って、自動的に実行モジュールを組み 込みます。選択後「**次へ(<u>N</u>) >**」のボタンをクリックしてください。

モジュール種類	説明
実行モジュール FLINK 用	FLINK で転送可能な、実行モジュール(xxxxxxx.lod)を作成します。
実行モジュール	MultiDROP で転送可能な、実行モジュール(xxxxxxx.mot)を作成します。
MultiDROP 用	
ライブラリ	ライブラリファイル(xxxxxxx.lib)を作成します。

GASIO モバイル ITRON アプリケーション - ステップ 1/3	×	
モジュール種類の選択		
作成モジュールの種類を選択してください。		
アラリケーション美行モシュール(XXXX mot)を作成します。 作成したモジュールは、MultiDROPを使用して転送します。 ○ ライブラリ(!): ライブラリモジュール(XXXX(lib)を作成します。 作成したモジュールは、転送しません。		
〈戻る(B) 次へ(N)〉 終了(F) キャンセル		

(3) 表示モードの選択

使用する表示モードを選択してください。選択した内容に従って、自動的に実行モジュールを組み込みます。選択後「**次へ(<u>N</u>) >**」のボタンをクリックしてください。

表示モード	説明
DT-930 標準モード	DT-930 標準の表示モードです。
	DT-900 用アプリケーションから移植する場合にも使用します。
DT-700 互換モード A	DT-700用アプリケーションを移植する際に使用する互換表示モードAです。
DT-700 互換モード B	DT-700用アプリケーションを移植する際に使用する互換表示モードBです。

CASIO モバイル ITRON アプリケーション - ステップ 2/3	×
表示モードの選択	
アプリケーションの表示モードを選択してください。 ・ DT-930標準モード(S) DT-930 標準表示モードを使用します。 アプリケーションには AP_STARTOBJ をリンクします。	
○ DT-700互換表示モードA(<u>A</u>): DT-700 互換表示モードAを使用します。 アプリケーションIコは AP_STARA.OBJ をリンクします。	
○ DT-700互換表示モードB(B): DT-700 互換表示モードBを使用します。 アプリケーションには AP_STARB.OBJ をリンクします。	
< 戻る(B) 次へ (N)> 終了(E) キャンセル	

※ ライブラリを作成する場合は、この画面はスキップします。

(4) 拡張機能の選択

使用する拡張機能を、表示した一覧の中から選択してください。選択した内容に従って、自動的に実行 モジュールを組み込みます。選択後「**終了(<u>F</u>)**」のボタンをクリックしてください。

拡張機能	説明
Bluetooth プリンタ	DT-930 内蔵の Bluetooth を利用して、外部 Bluetooth ポケットプリンタを制
	御するための機能です。PT-200e(SATO 社製)/B-SP2D(東芝テック社製)
IOBOX 検出切替	DT-500 プロトコルによる、本機と MCU60 との IR 通信を可能にするため、IO
	ボックス検出機能の有効/無効を切り替える機能です。
PPP	サテライト IOBOX 経由でモデムを接続して TCP/IP 通信を実現させるための
	機能です。
TEC IrDA プリンタ	TEC 社製 IrDA ポケットプリンタ(DT-810PR)を制御するための機能です。
アプリケーション支援	アプリケーション支援ライブラリです。
ビットマップ表示	BMP 形式のファイルを使用してビットマップ表示を行うための機能です。
高速ファイルサーチ	HASH 関数による高速ファイルサーチ機能です。
送受信切替	赤外線通信時のデータ送受信方向の自動切換え機能です。

CASIO モバイル ITRON アプリケーション - ステップ 3/3 🛛 🛛 🔀
拡張機能の選択
使用する拡張機能を選択してください。
Bluetoothプリンタ DBOX検出切替 PPP TEC IrDAプリンタ アプリケーション支援 ビットマップ表示 高速ファイルサーチ 送受信切替
〈戻る(B) 次へ(N)〉 終了(F) キャンセル

※上記の一覧表示は、初期状態で、本 SDK に組み込んでいるものです。独自に拡張機能を追加/削 除した場合は、追加/削除した内容を表示します。

(5) 新規プロジェクト情報

ウィザードで設定された、新規プロジェクト情報を表示します。確認後、「OK」ボタンをクリックしてください。



新規プロジェクト情報
CASIO モバイル ITRON アブリケーション は以下の仕様で新しいプロジェクトのスケルト ンを作成します:
以下に示すアプリケーションを作成します。
SAMPLE.mot アブリケーション実行モジュール Sample.c. Sample.h 作成したモジュールは、MultiDROPを使用して転送します。
<表示モード> DT-700 互換表示モードA
<拡張機能> アプリケーション支援 DPLIB.H, DPLIB.LIB
高速ファイルサーチ HASHLIB.H, HASH900.LIB
Bluetooth プリンタ prn_bth, prn_btobj
, プロジェクト ディレクトリ: D.¥MOVILEAID¥TEST¥Sample
OK キャンセル

(6) プロジェクトの完成

アプリケーションウィザードが終了すると、以下の画面を表示します。 これで、アプリケーションをビルドする環境が整いました。



2.2.3. アプリケーションの作成/編集(新規アプリケーション)

アプリケーションウィザードが完了すると、選択した構成に従って、自動的にモジュールを組み込み、ベースとなるアプリケーションソースを生成します。

「FileView」を開くと、「Source Files」「Header Files」フォルダ内に、ベースとなるソースファイルとヘッダファ イルがありますので、このファイルを編集して、新規アプリケーションを作成してください。

(1) ソースファイル

📴 sample - Microsoft eMbedded Visual C++ - [Sample.c]	
▶ ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入(P) ブロジェクト(P) ビルド(B) ツール(D) ウィンドウ(V) ヘルブ(H)	_ 8 ×
🍅 😅 🖬 🕼 🐰 🗠 🖻 그 - 오 - 📧 🗖 😚 🙀 demo 💽 🎉	
(ジローバル) ・ (すべてのジローバル 火・) ap_start ・ 風 ・ ファイル転送 フォント変換 環境設定	
sample 💽 DT-930 💽 Win32 (WCE x86) Release 💽 DT-930 Device 💽 🕸 🖽 📥 其 🛬	
「	
□ 【 〕 【 」 【 ビルド 〈 デバッグ 〉、 ファイルから検索1 〉、 ファイルから検索2 / 【 【 】	<u> </u>
既定のデバイスを選択します 1行、1列 REO 列	上書書茶

(2) ヘッダファイル

📴 Sample - Microsoft eMbedded Visual C++ - [Sample.h]	
▶ ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入(P) ブロジェクト(P) ビルド(B) ビルド(B) ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)	_ 8 ×
🎽 😅 🖬 🕼 🖄 모ㅋ오ㅋ 🖪 🕅 🛱 🎮 demo 💽 🦕	
(グローバル) ・ (すべてのグローバル ズ.・ 🍙 ap_start ・ 文 - ファイル転送 フォント支換 環境設定	
Sample 💽 DT-930 💽 Win32 (WCE x86) Release 💽 DT-930 Device 💽 🥸 🖽 🚣 ! 🖳 😷	
Image: Class View File View Image: Class View File View	- - -
メ コ コ コ コ コ コ コ マテイルから検索1 、ファイルから検索2 /	• •

2.2.4. アプリケーションの作成/編集(新規/既存共通)

以下の内容は、新規のアプリケーションを作成する場合でも既存のアプリケーションを作成する場合でも 共通の機能です。

(1) 複数ソースの登録

プロジェクト内に複数のソースコードを登録することが可能です。

「Source Files」フォルダ上で右クリックし、「ファイルをフォルダへ追加(F)」を選択し、登録します。 登録した場合は、自動的にビルド環境を再構成しますので、特に環境の設定をし直す必要はありません。

(2) コメントの記述方法

コメントを記載する場合に、「//」を使用することが可能です。

(3) ロードモジュール名

ビルドにより作成するロードモジュール (DT-930 で動作するモジュール) 名は、プロジェクト名と同じものです。

(4) 基本操作

アプリケーションの作成/編集に要する基本操作機能は、eVCと同等です。

※「Source Files」フォルダ内にある、xxx.def(xxx はプロジェクト名)ファイルは削除しないでください。こ のファイルはデバッグ時にエミュレータを起動するために使用するので、削除すると、エミュレータが起 動しなくなります。

2.2.5. アプリケーションの作成/編集(既存アプリケーション)

アプリケーションウィザードが完了すると、選択した構成に従って、自動的にモジュールを組み込み、ベー スとなるアプリケーションソースを生成します。

このソースをベースに、既存アプリケーション(MS/DOS版環境)を作成する方法は以下の2通りあります。

(1) ソースコードの貼り付け

「Source Files」「Header Files」フォルダ内に、ベースとなるソースファイルとヘッダファイルがありますので、 既存アプリケーションのソースコードを、これらのファイルの所定の場所に追加します。

(2) ソースコードの登録

ウィザードにより生成された、ソースおよびヘッダファイルを削除し、既存アプリケーションのソースおよび ヘッダファイルを「2.2.4 アプリケーションの作成/編集(新規/既存共通)」で示した手順で、登録してください。



2.3. アプリケーションのビルド

2.3.1. ビルド方法

ビルド方法は、eVC と同等です。 「ビルド(<u>B</u>)」>「ビルド(<u>B</u>)」を選択します。 ただし、DT-930 で動作するロードモジュールを作成する場合と、エミュレータで動作させる場合は、「アク ティブな構成」を切り替えてください。

DT-930 用ロードモジュールのビルド

Win32 (WCE x86) Release または Win32 (WCE x86) Debug を選択してください。

DT-930	➡ Win32 (WCE emulator) Debug	 DT-930 Device 	-
	Win32 (WCE emulator) Debug Win32 (WCE emulator) Release		
	Win32 (WCE x86) Debug Win32 (WCE x86) Release		

エミュレータ用ロードモジュールのビルド

Win32 (WCE emulator) Release または Win32 (WCE emulator) Debug を選択してください。

DT-930	→ Win32 (WCE emulator) Debug	▼ DT-930 Emulator	•
	Win32 (WCE emulator) Debug Win32 (WCE emulator) Release		ĸ
	Win32 (WCE x86) Release		

ビルドを開始すると、デバッグウィンドウにコンパイルーリンクの実行状態と結果を表示します。

🙀 APSMP - Microsoft eMbedded Visual C++ - [APSMP.c]	
□ ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入(Q) ブロジェクト(P) ビルド(B) ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルブ(H)	_ @ ×
🎽 😹 🖬 🕼 🖄 🕰 오고요고 🖪 🔉 😤 🎭 demo 🔽 🐝	
(グローバル) ・ (すべてのグローバル 火・ ▲obr_02 ・ 図 ・ ファイル転送 フォント変換 環境設定	
APSMP . DT-930 . Win32 (WCE x86) Release . DT-930 Device	0
→ 「 「 「 「 「 「 「 」 」 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	1
/* 6dot font set */ dat_system(SYSD_FNC_READ, SYSD_DSP, &sys_dt); sys_dt.font_md = FONT6_SET; dat_system(SYSD_FNC_WRITE, SYSD_DSP, &sys_dt); !cd_csr_put(1,0);	
Icd_string2(1,0,(UB *) ドルがキを押して下さい (0); /*05*/	لع.
▲ 【 】 【 ビルド 〈 デバッグ 〉 ファイルから検索1 〉 ファイルから検索2 / 【 】 【 】 しディ 【 386 行、1	L 1列 REC 列 上書 書禁 //

2.3.2. 生成するオブジェクトの種類

アプリケーションウィザードで指定した条件に応じて、規定のフォルダに実行モジュールを生成します。

モジュール種類	生成されるモジュール
実行モジュール FLINK 用	xxxxxxxx.LOD / xxxxxxxx.MAP
実行モジュール MultiDROP 用	xxxxxxxx.MOT / xxxxxxxx.MAP
ライブラリ	xxxxxxxx.LIB

2.4. アプリケーションのデバッグ

2.4.1. デバッグ基本操作

デバッグ方法は、eVCと同等です。

コンパイルおよびリンク時に発生したエラー情報は、すべてデバッグウィンドウに表示しますので、その内容を確認しながらデバッグを行ってください。

(1) コンパイルエラー

コンパイルエラーのメッセージにマウスをあわせてクリックすると、エラーが発生した箇所のソースコードに ジャンプします。



(2) リンクエラー



2.4.2. エミュレータデバッグ

本 SDK には、DT-930 エミュレータを搭載しています。これにより、DT-930 実機での確認を行う前に、PC 上で基本的な機能のデバッグが可能となります。

(1) エミュレータ動作の切り替え

「アクティブな構成」を Win32 (WCE emulator) Debug または Win32 (WCE emulator) Release に切り替 えます。

DT-930	➡ Win32 (WCE emulator) Debug	■ DT-930 Emulator	•
	Win32 (WCE emulator) Debug Win32 (WCE emulator) Release Win32 (WCE x86) Debug Win32 (WCE x86) Release		ĸ

Debugを選択した場合は、ソースコードに対して、ブレークポイントを設定し、ステップ実行等によるデバッグが可能になります。

APSMP - Microsoft e Mbedded Visual C++ [f@.L] - [APSMP.c]	- 7 🛛
▶ ファイル④ 編集④ 表示処 挿入Φ フロシェウト❷ デ/レシウ@ ツールひ ウィンドウѠ ヘルブΨ	_ & ×
🖹 😂 🖬 🕼 🖄 🐁 🛍 🖄 🗠 × 🗠 × 📴 🕅 🙀 (KillR:Thread 💽 🎢	
(ジローバル) - (オペてのジローバル 火・) 。 obr.01 ・ R ・	
AFSMP ・ 17-330 ・ Wr32 (WCE emulator) Debug ・ 17-930 Emulator ・ 20 巻 西 古 ! ミ の フォン支換 環境設定	
obr_md.Upce[5] = 1;	<u> </u>
OBR_modewt(&obr_md); OBR_open(0); OBR_flush(); # ★-入力設定 1 {	
	Þ
▲ コンテキスト der 010 ・ ② 27ボル名 値 ● prkey_inps [] ● ercd 67 ●	
≝dt810pr.dll	
aritapi930.dli APSMP.dli	
」 □ 【ビルド】、デバッグ / ファイルから検索1)、ファイルから検索2 /	
レディ 363 行、35 列	REC 列 上書 書禁 18:48
(2) プロジェクトの設定

「プロジェクト(P)」>「設定(S)」>「デバッグ」を選択し、下記の内容を設定します。

リモートの実行可能ファイルのパスとファイル名 プログラムの引数

:¥windows¥itlaunch.exe

:実行モジュール名(例:apsmp.lod)

プロジェクトの設定	2
設定の対象(S): Win32 (WCE emulator) Debug ● 『副 APSMP	全般 デバッグ C/C++ リンク リソース MIL (カテゴリ W): 全版 マ ローカルの実行可能ファイルのパスとファイル名(い) リモートの実行可能ファイルのパスとファイル名(い) リモートの実行可能ファイルのパスとファイル名(い) リモートの実行可能ファイルのパスとファイル名(い) リモートの実行可能ファイルのパスとファイル名(い) リモートの実行可能ファイルのパスとファイル名(い) リモートの実行可能ファイルのパスとファイル名(い) リモート作業用のディレクトリ(い)
	OK キャンセル

(3) 内部関数のデバッグ抑止

デバッグに必要ない、内部モジュールのデバッグを対象から外します。カテゴリの追加 DLL を選択すると、 下図の画面を表示しますので、「**口この他の DLL もデバッグ対象とする**」のチェックを外してしてください。

※ この設定をしていないと、エミュレータが起動した時点で、いくつかのローカルモジュールの検索ダイ アログを表示することがあります。その場合は、キャンセルボタンをクリックしてください。

プロジェクトの設定	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
設定の対象(S): Win32 (WCE emulator) Debug ・ 副 APSMP	全般 デバッグ C/C++ リンク リソース MIC () カテゴリ(): 追加 DLL モジュール(M): □-カル名 リモート名 デバッグ セッション間始ら時にモジュールのシンボルをロードする ために最初のカラムにチェックをつけてください。
<u>n</u>	

(4) デバッグ開始

「ビルド(B)」>「デバッグの開始(D)」>「実行(G)」を選択することにより、デバッグを開始します。 デバッグを開始すると、エミュレータと I/O シミュレータを自動的に起動し、下図の画面を表示します。

DT-930 エミュレータ

画面の表示等、DT-930 実機上の動作を再現しまの動作を擬似的に行うものです。 す。



I/O シミュレータ

マウスや PC のキーボードによるキー入力や、実行 バーコード入力・ローバッテリー発生・IOBOX 装着

09216-	9		
種別	コード		記印月
<			
登録			T TA
4+++++=			
	h¬t¤/±	De theile	
<u> </u>	(A180).	П н /////	
			7
			<u> </u>

詳細な機能に関しては、「3. エミュレータの使用方法」を参照してください。

2.5. アプリケーションのインストール

DT-930 実機へ、作成したアプリケーションをインストールします。 ツールバーの「ファイル転送」をクリックすると、現在のプロジェクトで設定しているロードモジュールの形式 に応じて、LMWIN または、MultiDrop が起動します。

ロードモジュール	起動するファイル転送ユーティリティ
実行モジュール FLINK 用	LMWIN
実行モジュール MultiDrop 用	MultiDrop

ファイル転送ユーティリティが起動したら、規定のフォルダに生成しているロードモジュールを設定して、 DT-930 へのインストールを行ってください。

※ 各ファイル転送ユーティリティの使用方法に関しては、「4. その他の機能」もしくは各々のマニュアル を参照してください。

3. エミュレータの使用方法

3.1. DT-930 エミュレータ

マウスや PC のキーボードによるキー入力や、実行 画面の表示等、DT-930 実機上の動作を再現しま す。



3.1.1. キー入力機能

DT-930 実機と同等のキー入力機能を搭載しています。 画面上のキーをマウスでクリックすることにより入力が可能です。 ※ PC のキーボードからの入力も可能です。

3.1.2. 表示機能

DT-930 実機と同等のフォントイメージを搭載し、実機同等の表示イメージを再現します。

3.1.3. バーコード入力機能

I/O シミュレータに登録されたバーコードデータを、トリガキーの押下等、バーコードの入力操作を行うことにより、指定したバーコードデータを入力することが可能です。

※ DT-930 エミュレータのトリガキーを押下(マウスクリック)する場合は、必ず1秒以上押し続けてください。 押下(マウスクリック)する時間が短いと、正しく入力ができない場合があります。

3.1.4. サウンド機能

DT-930 実機と同等の BEEP/SOUND 機能を搭載しています。

3.1.5. インジケーション機能

下記のインジケーション機能を再現します。

インジケーション	説明
LED 点灯	バーコード入力が行われた際に LED が点灯します
バイブレータ振動	DT-930 のイメージが振動します
ローバッテリーICON	ローバッテリーICON が点灯します
トリガキー押下	左右トリガキーが押されたことをより見やすくするために、押した時にトリガキ
	ーの横にマークを表示します

🔓 DT-930 Emulator	B 1/09216-	-9		
エミュレータ(匠) ヘルプ(田)				
	種別	コード	11戌8月	
	JAN	4901340972117		
	JAN	4560151623863		
	Code128	951A00145EAAA13		
	JAN	49400298		
■ ■ 品性能レーサ スキャナ拾載 ■	Code39	*5K500606*		
▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶				
「読販デー友」				
43400238				
		読取を行うコードを選	ぼ択した状態で ひのです じゅう じゅう じゅう した じゅう し じゅう し じゅう し じゅう し じゅう し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し し	
		エミュレータのトリガ-	_土_左坦 =	ŧ <i>╁</i>
		1220 301073		* 9
ABC DEF GHI				
	<		2	
JKL MNO PQR	24.63		T	
	宣称		~1	
	/状態設定—			
STU VWX YZ-	□ 1/0本**	りス接続		
			ה	
\$/+ %:*				
F1 F2 F3 F4				
SP 🔺 V BL				
F5 F6 F7 F8				

3.2. I/O シミュレータ

入力バーコードの登録・ローバッテリー発生・IOBOX 装着動作を擬似的に行うものです。

3.2.1. 入力バーコードの登録

(1) 登録選択

I/O シミュレータの「**登録**」ボタンをクリックする と、バーコード登録画面に移ります。



(2) バーコード登録

「コード種別」を選択し、任意のバーコード種別を選択します

バーコード登録	バーコード登録	
□-ド種別: JAN ▼ バーコード: 説明: 登録 キャンセル	コード種別: JAN マ JAN Addon EAN Addon EAN Addon IRBR: UPC-A Addon UPC-A Addon UPC-E Addon Code30 NW-7 Industrial 2of5 Interleaved 2of5 Code93 Code128 WSI	

(3) バーコードのデータと説明を登録

バーコード登録	. 🔀
コード種別:	JAN 💌
バーコード:	49143157
i兑8月:	JAN-8 CODE
	登録 キャンセル

(4) 登録完了

登録が完了すると、登録したバーコードが一覧 表に表示します。この登録操作を繰り返して、 デバッグに必要なバーコードを予め登録して おいてください。

種別	⊐-F		[見8月
JAN	49143157		JAN-8 CODE
0.0			TA
1210101			
□ 1/0#3	ウス撮続	✓ 0-パッデジー	
	4	L	
	-		

※バーコード登録時の注意事項

登録可能なバーコードは、DT-930 エミュレータ上で読取可能となっているコードに限ります。エミュ レータ起動直後はすべてのコードが読取可能となっていますが、アプリケーションを起動した場合は、 そのアプリケーションで設定した読取可能コードのみが、登録可能となります。

(5) 登録内容の編集

編集したいバーコードを一覧表から選択し、 「**編集**」ボタンをクリックすると、右記の画面を表示しますので、編集してください。

バーコード登録	k		X
一一時後日中	JAN	~	
(<u>1</u> ≝0).	49143157		
,· → ··· 説明:	JAN-8 CODE		
			登録 キャンセル

(6) 登録内容の削除

削除したいバーコードを一覧表から選択し、 「**削除**」ボタンをクリックすると、右記の画面を表示しますので、確認後、削除してください。

バーコードの剤除確認	X
'49143157'を削除しますか?	

3.2.2. ローバッテリー発生/IOBOX 接続動作

I/O シミュレータの状態設定にある「**ロI/O ボックス接続**」/「**ロローバッテリー**」にチェックを入れると、それ ぞれの動きを擬似的に再現します。

- I/O ボックス接続 DT-930エミュレータに対して、I/Oボックスが 接続されたことを通知します。 アプリケーション側でI/Oボックス接続のイベ ントを確認することができます。
- ローバッテリー DT-930 エミュレータに対して、ローバッテリ ーが発生したことを通知します。
 DT-930 エミュレータのローバッテリーICON が点灯します。また、アプリケーション側で、 ローバッテリー発生のイベントを確認すること ができます。



3.3. 実機とエミュレータの動作の違い

DT-930 実機と、DT-930 エミュレータの動作の違いを説明します。

3.3.1. デバッグ

デバッグできるのは、エミュレータのみになります。 実機を用いてのリモートデバッグはできませんのでご注意ください。

3.3.2. ドライブレター

エミュレータ上でファイルの操作(コピーや削除等)を行う場合は、eVC に付属しているリモートファイルビ ューワーを使用してください。その際、ドライブレターは DT-930 実機と下記のように異なります。

(1) FAT ファイルモードで使用する関数を実行した場合

DT-930 実機	DT-930 エミュレータ
Aドライブ	¥windows
Bドライブ	¥Flash Disk

※ プログラム内では、A: ¥data.dat と記載すると、自動的に¥windows¥data.dat と読み替えを行います。

(2) DT-700 互換ファイルモードで使用する関数を実行した場合

DT-930 実機	DT-930 エミュレータ
ドライブレター無し	¥windows

		このボタンを押し	てファイルをコピ	ニーします		
🔕 Windows CE リモート ファイル	E1-7					\mathbf{X}
ファイル(E) 表示(V) 接続(C) ヘル	7(H)					
<u>₽₀ ₽₀ ₽₀ № ⊞</u> ∰						
🖃 🖳 DT-930 Emulator	名前		サイズ	編集日時		^
ー 🗀 ネットワーク	Ents			01/26/2007 05:55	i PM	
🗈 🧰 FlashDisk	🚞 Help			01/27/2007 02:55	i AM	-
Recycled	自ち気に入り			01/27/2007 02:55	i AM	
Application Data	🗀 スタートアップ			01/27/2007 02:55	i AM	
My Documents	ニー デスクトップ			01/27/2007 02:55	i AM	
program Files	プログラム			01/27/2007 02:55	j AM	
Temp	■ 最近使ったファイル			01/27/2007 02:55	j AM	
Temp	afd.dll		61,952 /7イト	09/19/2006 10:57	PM	
	appdata.ini		69 /77ト	07/01/2004 12:00	I PM	
	APSMP.dll		17,408 //イト	01/10/2007 10:01	AM	
	🕎 asterisk.wav		3,116 /7イト	07/01/2004 12:00	I PM	
	asyncmac.dll		11.776 /당イト	09/19/2006 10:56	i PM	
	atice400.dll		50,688 /7イト	04/02/2004 04:46	i PM	
	🗒 audevman.dll		18,944 /7イト	09/19/2006 10:57	/ PM	
	🕎 autoras.dll		6,144 /7イト	09/19/2006 10:57	/ PM	
	🕎 ayeshell.dll		34,816 /7イト	12/07/2006 09:43	I PM	
	batchg.2bp		238 /7イト	07/01/2004 12:00	I PM	
	🔛 batlow.2bp		190 /7/ト	07/01/2004 12:00	J PM	
	🔛 battdrvr.dll		7,168 バイト	09/19/2006 10:57	PM	
	💭 blank.htm		454 バイト	07/01/2004 12:00	I PM	
	🕎 BluetoothLib.dll		24,576 /7イト	09/20/2006 11:02	2 AM	~
	<				2	8
使用可能	477 - 1990				NUM	- 11

3.3.3. 通信機能

赤外線および Bluetooth 等の通信機能を使用する関数は、エミュレータでは動作しません。該当する関数を実行した場合は、何もせずにエラーコードを返し、次の行に処理が移ります。

3.3.4. システムファイル

下記のシステムファイルは動作しません。 CONFIG.HTS / CONFIG.OBR / CONFIG.ID / CONFIG.PAS / ASTART.HTS / PatchXXX.LOD

3.3.5. 副電池

副電池のローバッテリー検出はできません。

3.3.6. バックライト/コントラスト

バックライトおよびコントラストは変化しません。

3.3.7. DT-700 互換表示モード

DT-700 互換表示モードの登録、および、ビルドはできますが、機能しません。(DT-930 の表示モードで動作します)

3.3.8. ユーザフォント/外字

DT-930 エミュレータでユーザフォントおよび外字フォントを使用する場合は、お手持ちのフォントをあらか じめ TrueType フォントに変換する必要があります。 TrueType フォントへの変換については、「4.1 フォントコンバータ」を参照してください。

3.3.9. **関数インタフェース**

(1) デバイス制御ライブラリ

関数	実機動作との違い
システムデータ管理	
dat_system	電源:値の設定/読出のみ
,	日本語/英語モード:値の設定/読出のみ
	コントラスト設定:値の設定/読出のみ
	通信:値の設定/読出のみ
	機器 ID:CONFIG.ID の値を返却/無い場合は「?????」を返却
	BIOS バージョン:固定値 1.0000 を返却
	パッチバージョン:固定値 1.0000 を返却
dat_OSVer_Read	DT930 エミュレータのバージョン/日付を返却
dat_dealer_chk	Itlaunch.exe の起動パラメータに設定した値が有効
	設定しない場合は E_OK を返却
dat_mem_size	-
電源管理	
pwr_hold_apo	-
pwr_off	レジューム設定は無効
pwr_ioboxBootMode	E_NG を返却(動作無し)
ブザー鳴動	
s_beep	-
s_sound	-
バイブレータ	
pwr_vibrator	-
日時設定	
s_dateset	-
s_dateget	-
s_timeset	-
s_timeget	-
ファイル管理(ドライブレターが異	なります)
fil_mkdir	-
fil_rmdir	-
fil_remove	-
fil_rename	-
fil_fstat	-
fil_chsize	-
fil_getsize	-
fil_findfirst	-
fil_findnext	-
fil_filesize	-
fil_filefind	-
dat_fdir	-
dat_fdel	-
dat_frname	-
dat_F_Search	-

関数	実機動作との違い
open	-
close	-
read	-
write	-
lseek	-
sbrk	
イベント通知機能	
pwr_inhabit	LB1 の通知のみ
pwr_inhabit_clr	-
key_fnc_mode	-
s_settimer	-
s_timerend	-
s_settimer2	-
s_timerend2	-
flg_sts	-
clr_flg	-
wai_flg	タイマーフラグ待ちのみ
画面表示	
Icd_cls	-
lcd_csr_set	-
lcd_csr_put	-
lcd_csr_get	-
lcd_char	ESC(画面クリア/カーソル位置設定)非対応
lcd_string	ESC(画面クリア/カーソル位置設定)非対応
lcd_string2	ESC(画面クリア/カーソル位置設定)非対応
Icd_userstr	ESC(画面クリア/カーソル位置設定)非対応
lcd_line	-
lcd_gaiji	切替により正常終了しますが、指定したフォント表示はできません
Icd_usrfont	切替により正常終了しますが、指定したフォント表示はできません
lcd_romfont	-
lcd_led	-
lcd_el	バックライトの明るさは変化しません
キー制御	•
key_select	-
key_read	-
key_string	-
key_num	-
key_check	-
key_clear	-
key_fnc	-
OBR 制御	
OBR_open	-
OBR_close	-
OBR_getc	-

関数	実機動作との違い
OBR_gets	-
OBR_flush	-
OBR_stat	-
OBR_moderd	-
OBR_modewt	-
OBR_chgbuf	-
OBR_trigmode	E_NG を返却(動作無し)
OBR_swing	値の設定/読出のみ
OBR_widenarrow	値の設定/読出のみ
OBR_getadjust	値の読出のみ
OBR_setadjust	値の設定のみ
OBR_getmargincheck	値の読出のみ
OBR_setmargincheck	値の設定のみ
シリアル通信制御	
c_open	E_NG を返却(動作無し)
c_close	E_NG を返却(動作無し)
c_status	E_NG を返却(動作無し)
c_hold	E_NG を返却(動作無し)
c_chkopen	E_NG を返却(動作無し)
c_dout	E_NG を返却(動作無し)
c_din	E_NG を返却(動作無し)
c_tmdin	E_NG を返却(動作無し)
c_out	E_NG を返却(動作無し)
c_break	E_NG を返却(動作無し)
c_txrx	E_NG を返却(動作無し)
c_iobox	E_NG を返却(動作無し)
c_irout	E_NG を返却(動作無し)
c_flush	E_NG を返却(動作無し)
c_bfsts	E_NG を返却(動作無し)
c_errbfring	E_NG を返却(動作無し)
c_rderrsts	E_NG を返却(動作無し)
c_chghdr	E_NG を返却(動作無し)
c_timer	E_NG を返却(動作無し)
c_er	E_NG を返却(動作無し)
c_rs	E_NG を返却(動作無し)
c_errs	E_NG を返却(動作無し)
c_brkevent	E_NG を返却(動作無し)
IrDA 制御	
Ir_Open	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_Close	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_Read	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_Write	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_QueryTx	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_QueryRx	E_IRNG を返却(動作無し)

関数	実機動作との違い
Ir_EROn	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_EROff	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_RSOn	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_RSOff	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_BreakOn	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_BreakOff	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_CheckCD	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_CheckDR	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_CheckCS	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_CheckCI	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_CheckBreak	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_Err_Get	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_State_Set	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_SetPortConfig	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_Init	E_IRNG を返却(動作無し)
Ir_SetWinMode	E_IRNG を返却(動作無し)
Bluetooth 制御	
BT_Start	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_Stop	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_GetLocalInfo	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_SetLocalInfo	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_Inquiry	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_GetDevInfo	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_GetDevName	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_SetPassKey	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_SelectDev	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_Open	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_Close	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_Read	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_Write	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_QueryRx	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_SaveDevInfo	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_LoadDevInfo	E_BTNG を返却(動作無し)
BT_Err_Get	E_BTNG を返却(動作無し)
通信ユーティリティ制御(共通ファ	ンクション)
cu_stopKeySet	E_NG を返却(動作無し)
cu_setDrive	E_NG を返却(動作無し)
通信ユーティリティ制御(マルチド	ロッププロトコル)
cu_open	E_NG を返却(動作無し)
cu_fileSend	E_NG を返却(動作無し)
cu_fileSendSet	E_NG を返却(動作無し)
cu_fileSend1	E_NG を返却(動作無し)

関数	実機動作との違い
cu_fileRecv	E_NG を返却(動作無し)
cu_msg_Send	E_NG を返却(動作無し)
cu_end	E_NG を返却(動作無し)
cu_close	E_NG を返却(動作無し)
cu_readErrStat	E_NG を返却(動作無し)
cu_readDIRjInfo	E_NG を返却(動作無し)
通信ユーティリティ制御(FLNK プ	ロトコル)
cu_open	E_NG を返却(動作無し)
cu_fileSend	E_NG を返却(動作無し)
cu_fileAdd	E_NG を返却(動作無し)
cu_fileRecv	E_NG を返却(動作無し)
cu_close	E_NG を返却(動作無し)
cu_readErrStat	E_NG を返却(動作無し)
cu_idle	E_NG を返却(動作無し)
cu_cmdRecv	E_NG を返却(動作無し)
cu_fileDelete	E_NG を返却(動作無し)
cu_fileMove	E_NG を返却(動作無し)
cu_makeDir	E_NG を返却(動作無し)
cu_getFileInfo	E_NG を返却(動作無し)
cu_setFileInfo	E_NG を返却(動作無し)
cu_getDiskInfo	E_NG を返却(動作無し)
cu_dateTime	E_NG を返却(動作無し)
cu_getSysInfo	E_NG を返却(動作無し)
cu_msgSend	E_NG を返却(動作無し)
cu_beep	E_NG を返却(動作無し)
cu_setloboxInfo	E_NG を返却(動作無し)
cu_fchklog_Create	E_NG を返却(動作無し)
cu_fchklog_Check	E_NG を返却(動作無し)
通信ユーティリティ制御(DT500)	プロトコル)
cu_open	E_NG を返却(動作無し)
cu_fileSend	E_NG を返却(動作無し)
cu_fileRecv	E_NG を返却(動作無し)
cu_close	E_NG を返却(動作無し)
cu_readErrStat	E_NG を返却(動作無し)
cu_SetCode	E_NG を返却(動作無し)
共通関数	
dat_Apload	呼び出し元のアプリケーションは自動終了しません
	※関数実行後 ap_start()から直ちに処理を抜けるようにしてください
abort	-
exit	
wkup_cost	メッセージ BOX が表示されます
wkup_calib	メッセージ BOX が表示されます

(2) 拡張機能ライブラリ

関数	実機動作との違い
アプリケーション支援ライブラリ	
ht_CheckDate	-
ht_CheckYear	-
ht_ConvertYear	-
ht_Checksum	-
ht_CalcCRC_ANSI	-
ht_CalcCRC_CCITT	-
ht_CalcCRC_X	-
ht_CalcLRC	-
ht_CheckCD	-
ht_FCWait	-
ht_StrInp	-
ht_NumInp	-
ht_DateInp	-
ht_TimeInp	-
ht_ShiftMode	-
ht_MLTsend	E_NG を返却(動作無し)
ht_MLTrecv	E_NG を返却(動作無し)
ht_FLNKsend	E_NG を返却(動作無し)
ht_FLNKrecv	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_open	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_close	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_status	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_hold	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_chkopen	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_dout	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_din	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_tmdin	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_out	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_break	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_txrx	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_iobox	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_irout	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_timer	E_NG を返却(動作無し)
lr_c_rs	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_er	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_ errs	E_NG を返却(動作無し)
lr_c_flush	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_bfsts	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_errbfring	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_rderrsts	E_NG を返却(動作無し)
Ir_c_chghdr	E_NG を返却(動作無し)
ht_fileopen	-
ht_fileclose	-

	関数	実機動作との違い
	ht_fileread	-
	ht_filewrite	-
	ht_filesize	-
	ht_filelof	-
	ht_waitmsec	-
	ht_dbgsendmsg	動作無し
	ht_beep	-
	xy_modem	エラー終了(動作無し)
	Ir_xy_modem	エラー終了(動作無し)
ビッ	トマップ表示ライブラリ	
	bmp_iDisplayBmp1mage	
	bmp_iDisplayBmpData	-
Blu	etooth プリンタライブラリ	
	prn_BTinf_open	E_NG を返却(動作無し)
	prn_BTinf_close	E_NG を返却(動作無し)
	prn_BTinf_send	E_NG を返却(動作無し)
	prn_BTinf_recvSts	E_NG を返却(動作無し)
高訊	東ファイルサーチライブラリ	
	iHashAssign	
	iHashRead	-
	iHashWrite	
	iHashAdd	-
TE	C IrDA プリンタライブラリ	
	prn_tecinf_open	E_NG を返却(動作無し)
	prn_tecinf_close	E_NG を返却(動作無し)
	prn_tecinf_send	E_NG を返却(動作無し)
	prn_tecinf_send2	E_NG を返却(動作無し)
	prn_tecinf_status	E_NG を返却(動作無し)
送	受信切替ライブラリ	
	linkmodule_c_dout	E_NG を返却(動作無し)
	linkmodule_c_out	E_NG を返却(動作無し)
101	3OX 検出切替ライブラリ	
	io_detect	E_NG を返却(動作無し)

4. その他の機能

4.1. フォントコンバータ

DT-930 C Language SDK GUI Version はアドインツールとして「フォントコンバータ」を搭載しています。 DT-930 エミュレータと実機ではフォントファイルのフォーマットが異なるため、DT-930 エミュレータでユー ザ定義フォントファイル※を使用する場合は、DT-930 実機で使用しているユーザ定義フォントファイルを DT-930 エミュレータ用のユーザ定義フォントファイルに変換する必要があります。 また、本ツールを使用して、新規にユーザ定義フォントファイル(for DT-900、DT-930、DT-930 エミュレー タ)を作成することが可能です。

※ ユーザ定義フォントファイル

縮小 ANK(6×6)、縮小 ANK(8×8)、縮小 ANK(10×10) 標準 ANK(6×12)、標準 ANK(8×16)、標準 ANK(10×20) 漢字(12×12)、漢字(16×16)、漢字(20×20) 外字(12×12)、外字(16×16)、外字(20×20)

フォントコンバータの構成



DT-900.kcg

DT-900.kcgは **DT-930** C Language SDK GUI Version と同時にインストールされます。 ユーザ定義フォントファイル(for DT-900、DT-930、DT-930 エミュレータ)を新規に作成する場合は、本フ ァイルをもとにフォントデータを作成します。

ユーザ定義フォントファイル(for DT-900)

ユーザ定義フォントファイル(for DT-900)は DT-900 実機で使用するユーザ定義フォントファイルです。 既にユーザ定義フォントファイル(for DT-900)がある場合は、その編集および DT-930、DT-930 エミュレ ータ用のユーザ定義フォントファイルに変換することが可能です。

また、DT-900.kcg を使用して新規に DT-900 用のユーザ定義フォントファイルを作成することが可能です。

ユーザ定義フォントファイル(for DT-930)

ユーザ定義フォントファイル(for DT-930)は DT-930 実機で使用するユーザ定義フォントファイルです。 既にユーザ定義フォントファイル(for DT-930)がある場合は、その編集および DT-900、DT-930 エミュレ ータ用のユーザ定義フォントファイルに変換することが可能です。

また、DT-900.kcg を使用して新規に DT-930 用のユーザ定義フォントファイルを作成することが可能です。

ユーザ定義フォントファイル(for DT-930 エミュレータ)

ユーザ定義フォントファイル(for DT-930 エミュレータ)は DT-930 エミュレータで使用するユーザ定義フォントファイルです。

既にユーザ定義フォントファイル(for DT-900 または DT-930)がある場合は、それをもとに作成することが可能です。

また、DT-900.kcg を使用して新規に DT-930 エミュレータ用のユーザ定義フォントファイルを作成すること が可能です。

1 文字ビットマップファイル

編集したい1文字を選択し、その文字をビットマップファイル(*.bmp)として出力することが可能です。 また、出力したビットマップファイルを外部のビットマップエディタで編集し、各ユーザ定義フォントファイル に反映することが可能です。

4.1.1. 機能

フォントデータ表示/反映

作成または編集したユーザ定義フォントファイルを確認するための Viewer 機能です。 既存のユーザ定義フォントファイル (for DT-900、DT-930)を表示する場合は、以下のファイル名および拡 張子に修正してください。

•	フ	7	イ	ル名
•	/)	1	12-12

ファイル名	内容
ANK6	縮小 ANK (6×6)
ANK8	縮小 ANK (8×8)
ANK10	縮小 ANK (10×10)
ANK12	標準 ANK (6×12)
ANK16	標準 ANK (8×16)
ANK20	標準 ANK (10×20)
Kanji12	漢字(12×12)
Kanji16	漢字(16×16)
Kanji20	漢字(20×20)
Gaiji12	外字(12×12)
Gaiji16	外字(16×16)
Gaiji20	外字(20×20)

• 拡張子

拡張子	内容
*.ufh	for DT-900
*.ufv	for DT-930

フォント変換

作成または編集したユーザ定義フォントファイルを指定した機種用(DT-900、DT-930、DT-930 エミュレー タ)のユーザ定義フォントファイルまたは1文字ビットマップファイルに変換します。 DT-900、DT-930用のユーザ定義フォントファイルは上記のファイル名と拡張子で出力します。 また、DT-930エミュレータ用のユーザ定義フォントファイルは下記のファイル名で出力します。

ファイル名	内容	タイプフェース名
UserAL6.ttf	縮小 ANK (6×6)	UserFontAL
UserAL6W.ttf	橫倍縮小 ANK (6×6)	
UserAL8.ttf	縮小 ANK (8×8)	
UserAL8W.ttf	橫倍縮小 ANK (8×8)	
UserAL10.ttf	縮小 ANK(10×10)	
UserAL10W.ttf	橫倍縮小 ANK (10×10)	
UserAS6.ttf	標準 ANK (6×12)、漢字(12×12)	UserFontAS
UserAS6W.ttf	橫倍標準 ANK (6×12)、橫倍漢字(12×12)	
UserAS8.ttf	標準 ANK(8×16)、漢字(16×16)	
UserAS8W.ttf	橫倍標準 ANK (8×16)、橫倍漢字(16×16)	
UserAS10.ttf	標準 ANK(10×20)、漢字(20×20)	
UserAS10W.tt	橫倍標準 ANK (10×20)、橫倍漢字(20×20)	
f		
GaijiAS6.ttf	外字(12×12)	GaijiFontAS
GaijiAS6W.ttf	橫倍外字(12×12)	
GaijiAS8.ttf	外字(16×16)	
GaijiAS8W.ttf	横倍外字(16×16)	
GaijiAS10.ttf	外字(20×20)	
GaijiAS10W.tt	橫倍外字(20×20)	
f		

• ユーザフォント定義ファイル (for DT-930 エミュレータ)

• 1文字ビットマップファイル

1文字ビットマップファイルのファイル名は、フォントファイル名_ユーザ定義フォントファイル内のインデックス.bmpとなります。

例)標準 ANK (10×20)の「A」

ANK20_66.bmp

4.1.2. 画面構成

基本画面

-off	🖁 Handy Terminal Font form conversion Tool												
	Display F	ont: ANK	6*6dot	•	1								
	i	2	3	4	5	6	ż	8	9	10	^		
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20			
	21	22	23	3	25	26	27	28	29	30	2		
	31	32	33	' 34	 35	* 36	\$ 37	× 38	* 39	40			
	-	۰ بر ا	*	+	·	- 🦉		 (e)) •	1	<mark>6</mark>		
L	Make I	rue lype h	ont Files			Conve	ersion	1m	port		ancel		

	項目名	説明
1	Display Font	Font 表示領域に表示するフォント種類を指定します
		デフォルトは、ANK 6*6dot です
		フォント種類には、ANK6*6、ANK8*8、ANK10*10、ANK6*12、
		ANK8*16、ANK10*20、Kanji12*12-1、-2、-3、Kanji16*16-1、-2、-3、
		Kanji20*20-1、-2、-3、Gaiji12*12、Gaiji16*16、Gaiji20*20 があります
2	Font 表示領域	①で指定したフォントを表示する領域です
		定義されていない文字は「・」で表示します
3	選択フォント	Font 表示領域に表示している 1 文字を選択することができます
		選択すると他の文字と区別できるように、インデックスのバックグランドカラ
		ーが変化します
4	Conversion ボタン	Conversion 画面を表示します
		詳細は下記の Conversion 画面を参照してください
5	Import ボタン	Import 画面を表示する
		詳細は下記の Import 画面を参照してください
6	Cancel ボタン	フォントコンバータを終了します
\bigcirc	Make ボタン	Import 画面を表示し、選択したフォントの True Type Font を生成します
		詳細は下記の Import 画面を参照してください

Conversion 画面



	項目名	説明							
1	出力ファイルの種類	出力するファイル形式を選択します							
		True Type Font Files							
		ユーザ定義フォントファイル(for DT-930 エミュレータ)							
		DT-930 User Font Files							
		ユーザ定義フォントファイル(for DT-930)							
		DT-900 User Font Files							
		ユーザ定義フォントファイル(for DT-900)							
		Bitmap File							
		1 文字ビットマップファイル							
		出力ファイルは「 4.1.1 機能 」に示したファイル名で保存します							
2	OK ボタン	変換ファイルの保存フォルダを指定するダイアログを表示します(下記参							
		照)							
3	Cancel ボタン	Conversion 画面を閉じ、基本画面に戻ります							



	項目名	説明
1	保存するフォルダ	ファイルを保存するフォルダを指定します
2	OK ボタン	ファイルを作成し保存します
3	キャンセル ボタン	本ダイアログを閉じ、Conversion 画面に戻ります

※本ダイアログで指定したフォルダ内に、出力ファイルと同名のファイルが存在する場合は、確認メッセ ージを出力します。詳細は下記のメッセージダイアログを参照してください。

Import 画面

Import	? 🛛
ファイルの場所(<mark>1)</mark> Contemp	- 🔁 🖆 📰 -
2	
ファイル名(W): ③ ファイルの種類(④) DT-930 User Font File (*.ufv)	■ 「「「「「「」」 「「」 「「」」 「」 「」 「」 「」 「」 「」」 「」

	項目名	説明
1	ファイルの場所(<u></u>)	取り込むファイルが存在するフォルダを選択します
2	ファイル表示領域	①で指定したフォルダ内にある④で指定した拡張子のファイルを表示し
		ます
3	ファイル名(<u>N</u>)	取り込むファイルを指定します(複数指定可能)
		「4.1.1 機能」に示したすべてのファイルを指定しなくても、エラーにはなり
		ません
		指定したファイルに関するフォントのみ、基本画面の Font 表示領域を変
		更します
		「4.1.1 機能」に示したファイル名と異なるファイルを指定した場合はエラ
I		ーメッセージを出力し、取り込みを停止します
4	ファイルの種類(<u>T</u>)	取り込むファイルの種類を拡張子で指定します
5	開く <u>(O)</u> ボタン	Import ボタンから呼び出した場合:
		③で指定したファイルをもとに、基本画面の Font 表示領域を更新し、基
		本画面に戻ります
		Make ボタンから呼び出した場合:
		③で指定したファイルをもとに、True Type Font を生成し、基本画面に戻
		ります
6	キャンセル ボタン	Import 画面を閉じ、基本画面に戻ります

メッセージダイアログ

• エラーメッセージダイアログ

本ツール使用時に、エラーが発生した場合は、エラーメッセージダイアログを表示します。 図中の点線内に下表のメッセージのいずれかを表示します。



エラーメッセージ	説明
The KCG file is not found.	DT-900.kcg ファイルが存在しない場合
Application will close.	
The memory which this application uses is	メモリが不足している場合
short.	
The formats of the KCG file are different.	DT-900.kcg のバージョンが異なる場合
Application will close.	
File name is different.	*.ufv、*.ufhのファイル名が規定と異なる場合
Please choose 1 character to change.	ビットマップファイルをインポートするときに変更する
	文字を選択していない場合
Size of 1 character to change is different	ビットマップファイルをインポートするときに選択した文
from a Bitmap file.	字とビットマップファイルのサイズが異なる場合
The BIN files are not found.	TrueTypeFont ファイルの入力となる BIN ファイルが存
	在しない場合
This application cannot read an external	外字ファイルを読み込めない場合
character file.	

確認メッセージダイアログ

ユーザフォント定義ファイル保存時に、指定したフォルダ内に同名のファイルが存在する場合は、確認メ ッセージダイアログを表示します。

ファイルを上書きする場合は「**OK**」ボタンを、上書きしない場合は「**キャンセル**」ボタンを押下してください。 図中の点線内に対象のファイル名を表示します。



4.1.3. 使用方法

(1) 起動方法

ツールバーの「フォント変換」をクリックすることにより、「4.1.2 画面構成」に示した基本画面が起動します。

🕺 Microsoft eMbedded Visual C++	
∬ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入Φ プロジェクト(P) ビルド(B) ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルブ(H)
웥 🚅 🖬 🕼 🐁 🖻 😫 🗠 - 오 - 🗖 🗖 😤 🐂	▼ 343
y y	ファイル転送 フォント変換 ■環境設定
▲ ▲ ■ ■ 【 ビルド 〈デバッグ 〉 ファイルから検索1 〉 ファイルから検索2 /	
レディ	

For	Handy Terminal Font form conversion Tool										
	Display F	ont: ANK	(6*6dot	•							
	1	2	3	4	5	6	; 7	8	9	10	^
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	31	32	33	؛ 34	 35	# 36	₅ 37	× 38	æ 39	- 40	
	c	'n	*	+		-		,	A	1	~
						Conve	rsion	Im	port	Car	icel

(2) ユーザ定義フォントファイルの新規作成

ユーザ定義フォントファイルを新規作成します。ここでは、縮小 ANK (8×8)の「A」を変更し、ユーザ定義 フォントファイル (for DT-930 エミュレータ)を作成する手順を示します。

1. フォントコンバータを起動し、Display Font を「ANK 8*8dot」に変更します。

-of	Handy	Termina	l Font fo	orm conv	ersion	Tool						
	Display Font ANK 6+6dut											
	1		10*10dot 6*12dot 8*16dot 10*20dot	~	5	6	7	8	9	10		
	•		•	•	•	•	•	•	•	•		
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
	•				•	•	•	•	•			
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
							5	*	3:	-		
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40		
			*	+		-		/	a	,	~	
						Conve	rsion	Im	port	Car	icel	

2. Font 表示領域に表示している「A」を左クリックし、インデックスナンバーのバックグランドカラーが変化 したことを確認します。

3	Handy	Terminal	Font fo	rm conve	ersion T	ool					X
	Display F	ont: ANK	8*8dot	•							
	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	^
	2 51	3 52	4 53	5 54	6 55	7 56	8 57	9 58	: 59	, 60	
	< 61	= 62	> 63	? 64	а 65	А 66	в 67	с 68	D 69	Е 70	
	F 71	6 72	н 73	і 74	ј 75	к 76	L 77	м 78	н 79	0 80	
	Р	Q	R	s	т	U	v	М	×	Ŷ	~
						Convers	ion	Import		Cance	l

3. 「Conversion」ボタンを押下し、Conversion 画面が起動したことを確認します。

-01	Handy	Terminal	Font fo	rm conv	ersion T	ool					
	Display F	ont: ANK	8*8dot	•							
	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	^
	2 51	3 52	4 53	5 54	6 55	7 56	8 57	9 58	: 59	, 60	
	< 61	= 62	> 63	? 64	а 65	А 66	в 67	с 68	р 69	е 70	
	F 71	6 72	н 73	1 74	ј 75	к 76	L 77	м 78	н 79	0 80	
	Р	Q	R	s	т	U	v	М	×	Ŷ	~
					[Convers	ion	Import		Cance	

4. 「Bitmap File」にチェックを入れ、「OK」を押下します。



5. 出力する任意のフォルダを選択し、「OK」を押下します。ここでは、C:¥TEMP に出力します。 出力フォルダ内に同名のファイルが存在する場合は上書き確認ダイアログを表示します。上書きしな い場合は別のフォルダを指定してください。

フォルダの参照	? 🔀
Select folder for output	
B	
שיש WINDOWS שיש Windows CE Tools שיש ח-לאון. דע לע (חי)	التات (مريد

- 6. C:¥TEMP に ANK8_66.bmp が存在することを確認し、ビットマップエディタを用いて編集し、 ANK8_66.bmp を上書き保存します。
- 7. 手順 1.および 2.と同様に、「ANK 8*8dot」の「A」を選択した状態で、「Import」ボタンを押下し、Import 画面が起動したことを確認します。

-	Handy	Terminal	Font fo	rm conv	ersion T	ool					
	Display F	ont: ANK	8*8dot	•							
	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	^
	2 51	3 52	4 53	5 54	6 55	7 56	8 57	9 58	: 59	; 60	
	۲ 61	= 62	> 63	? 64	а 65	А 66	в 67	с 68	р 69	е 70	
	F 71	6 72	н 73	1 74	ј 75	к 76	L 77	M 78	N 79	0 80	
	Р	Q	R	S	т	U	v	М	×	Ŷ	~
					[Convers	ion	Import		Cance	

8. 「ファイルの場所(<u>I</u>)」に手順 5. で指定した C:¥TEMP を、「ファイルの種類(<u>T</u>)」に「Bitmap File (*.bmp)」 を選択すると、手順 6. で編集した ANK8_66.bmp が表示されていることを確認します。

Import				? 🛛
ファイルの場所の:	ТЕМР	•	3 🕫	📂 🛄•
ANK8_66.bmp				
ファイル名(N):				
ファイルの種類(工):	Bitmap File (*.bmp)		•	キャンセル

9. ANK8_66.bmp を選択し、「**開く(<u>O</u>)」**ボタンを押下します。

Import			? 🛛
ファイルの場所の:	C TEMP	- G 🕫	€
ANK8_66.bmp			
	4		
ファイル名(N):	ANK8_66.bmp		■■ (◎)
ファイルの種類(工):	Bitmap File (*.bmp)	•	キャンセル

10. Font 表示領域内の「A」が手順 6.で編集した文字に変わっていることを確認します。

-of	Handy 1	Fermina l	Font fo	rm conve	rsion T	ioo l					
	Display Fo	ont: ANK	8*8dot	•							
		72	70		40	40	71	40	77		~
	2 51	3 52	4 53	5 54	6 55	7 56	8 57	9 58	: 59	, 60	
	< 61	= 62	> 63	? 64	a 65	म 66	в 67	с 68	D 69	е 70	
	F 71	6 72	н 73	1 74	ј 75	к 76	L 77	м 78	н 79	0 80	
	P	0	R	S 04	T	U	۷ 07	W	×	¥ 00	~
						Convers	ion [Import		Cance	

1	Handy 1	Terminal	Font fo	rm conv	ersion T	ool					X
	Display Fo	ont: ANK	8*8dot	•							
		76	40		40	40		40	40		^
	2 51	3 52	4 53	5 54	6 55	7 56	8 57	9 58	: 59	; 60	
	< 61	= 62	> 63	? 64	а 65	н 66	в 67	с 68	р 69	е 70	
	ғ 71	6 72	н 73	і 74	ј 75	к 76	L 77	м 78	н 79	o 80	
	P	0	R	S 04	T	U	v 07	W	×	¥ 00	~
						Convers	ion [Import		Cance	1

11. 「Conversion」ボタンを押下し、Conversion 画面を起動したことを確認します。

12. 「True Type Font Files」にチェックを入れ、「OK」ボタンを押下します。



- 13. 手順 5.と同様に、出力先フォルダに C:¥TEMP を選択し、「OK」ボタンを押下します。 出力フォルダ内に同名のファイルが存在する場合は上書き確認ダイアログを表示します。上書きしな い場合は別のフォルダを指定してください。
- 14. C:¥TEMP フォルダ内に「4.1.1 機能」のユーザフォント定義ファイル(for DT-930 エミュレータ)に示した ファイルが存在することを確認します。

ユーザ定義フォントファイル (for DT-900、DT-930)を新規作成する場合は、手順 12. で「DT-900 User Font Files」または 「DT-930 User Font Files」を選択してください。

(3) 既存のユーザ定義フォントファイルの編集

既存のユーザ定義フォントファイル(for DT-930)を編集します。ここで使用する既存のユーザ定義フォントファイルは、漢字(20×20)の「亜」を「DT930」に変更しているものとします。ここでは、「DT930」を変更し、ユーザ定義フォントファイル(for DT-930)を編集する手順を示します。

1. 既存のユーザ定義フォントファイルを「4.1.1 機能」に示したファイル名および拡張子に変更します。

2.	フォントコンバー	タを起動し、	「Import」ボ	タンを押	下します。
----	----------	--------	-----------	------	-------

Handy	Termina	l Font fo	orm conv	ersion	Tool					
Display F	ont: ANK	(6*6dot	•							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	^
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
31	32	33	' 34	35	# 36	s 37	× 38	²× 39	40	
,	ì	*	÷		-		, Im	a	, 	
					Conve	rsion	1mj	port		icei

3. 「ファイルの場所(<u>i</u>)」に手順 1.でファイル名および拡張子を変更したファイルが存在するフォルダを、 「ファイルの種類(<u>T</u>)」に「DT-930 User Font File (*.ufv)」を選択します。ここでは、C:¥TEMP にファイル があるものとします。

Import			? 🛛
ファイルの場所の:	TEMP 💌	🗢 🗈 🖰	* ==-
ANK6.ufv ANK8.ufv ANK10.ufv ANK12.ufv ANK16.ufv ANK16.ufv ANK20.ufv	ਾ Kanji12ufv ™ Kanji16ufv ™ Kanji20ufv		
ファイル名(N):			開<(⊙)
ファイルの種類(工):	DT-930 User Font File (*.ufv)	•	キャンセル

4. 「Kanji20.ufv」を選択し、「**開**く(<u>O</u>)」ボタンを押下します。

(ファイルを複数選択することも可能です。ここでは漢字(20×20)を編集するため、Kanji20.ufv のみ を選択しています。)

Import			? 🛛
ファイルの場所の	С ТЕМР	- 🗢 🗈	r 🖬
ANK6.ufv ANK8.ufv ANK10.ufv ANK12.ufv ANK12.ufv ANK16.ufv ANK20.ufv	🗊 Kanji12ufv I Kanji16ufv I Kanji20ufv		
ファイル名(凹):	Kanji20.ufv		■⟨⊘⟩
ファイルの種類(工):	DT-930 User Font File (*.ufv)	•	キャンセル

🚆 Handy	Termina	il Font f	orm con	version	Tool					X
Display F	ont: AN	(6*6dot ii 20*20dot								
1	2 Kan 2 Kan Gaij Gaij	ji 20*20do ji 20*20do i 12*12dot i 16*16dot	- 3	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
31	32	33	: 34	35	* 36	\$ 37	× 38	* 39	40	
	1	*	+		-		,	a	,	~
					Conve	ersion	Im	port	Can	cel

5. Display Font を「Kanji 20*20dot - 1」に変更します。

6. 「亜」が「DT930」に変わっていることを確認します。



7. 「(2) ユーザ定義フォントファイルの新規作成」の手順 3.~10.と同様に、「DT930」を編集し、その編集した文字が Font 表示領域に表示されていることを確認します。

-01	Handy Terminal Font form conversion Tool										
	Display Font:	Kanji 20*	20dot - 1 💌	I							
	•	•	•	•	•	•	•	•	^		
	849	850	851	852	853	854	855	856			
								Ŧ	_		
	857	858	859	860	861	862	863	864			
	唖	娃	阿	哀	愛	挨	姶	逢			
	865	866	867	868	869	870	871	872			
	菼	Ŧ	兼	亜	垠	泯	1 8	苔	~		
					Conversio	on	Import	Canc	el		

- 🖀 Handy Terminal Font form conversion Tool × Display Font: Kanji 20*20dot - 1 💌 ^ 849 850 851 852 853 854 855 856 Ħ 857 858 859 860 861 862 863 864 啢 娃 阿 哀 愛 挨 姶 逢 867 869 865 866 868 870 871 872 葜 艹 毥 亜 垢 温 加日 菩 Conversion Import Cancel
- 8. 「Conversion」ボタンを押下し、Conversion 画面を起動したことを確認します。

9. 「DT-930 User Font Files」にチェックを入れ、「OK」ボタンを押下します。



10. 出力する任意のフォルダを選択し、「**OK**」を押下します。ここでは、C:¥TEMP に出力します。 出力フォルダ内に同名のファイルが存在する場合は上書き確認ダイアログを表示します。上書きしな い場合は別のフォルダを指定してください。

フォルダの参照	? 🗙
Select folder for output	
i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	^
MSOCache	
Brogram Files	
ー Cinit TEMP ・ Cinit WINDOWS ・ Cinit Windows CE Tools ・ Cinit ディスク (ロ)	•
OK ギャン	ten 🛛

11. C:¥TEMP フォルダ内に「4.1.1 機能」のユーザフォント定義ファイル(for DT-930)に示したファイルが存在することを確認します。

編集したユーザ定義フォントファイル (for DT-930)を DT-930 エミュレータ、DT-900 で使用する場合は、 手順 9.で「True Type Font Files」または「DT-900 User Font Files」を選択してください。 また、手順 3.で「ファイルの種類(T)」に「DT-900 User Font File (*.ufh)」を選択することにより、DT-900 用 のユーザ定義フォントファイルの編集が可能となります。

4.1.4. 注意事項

外字について

本ツールの初回起動時は、Display Font を「Gaiji 12*12dot」、「Gaiji 16*16dot」、「Gaiji 20*20dot」に設定 しても、Font 表示領域に何も表示しません。

🕼 Handy Terminal Font form conversion Tool	×
Display Font: Gaiji 12*12dot 💽	
Conve	rsion Import Cancel

外字を編集するためには、「4.1.3 使用方法(3)既存のユーザ定義フォントファイルの編集」の手順 3.と 同様の手順で既存の外字ファイルを取り込む必要があります。

Import				? 🛛
ファイルの場所の:	C fontufy	•	🗢 🖻 C	*
CANK6ufv ANK8ufv ANK10ufv ANK12ufv ANK12ufv ANK16ufv ANK20ufv	E Gaiji12ufv Gaiji16ufv Gaiji20ufv Kanji12ufv Kanji16ufv Kanji20ufv			
ファイル名(11):	[™] Gaiji12.ufv″ ″Gaiji16.uf	v″ ″Gaiji20.ufv″		■■ (2)
ファイルの種類(工):	DT-930 User Font File	(*.ufv)	•	キャンセル

取り込んだ外字ファイルが Font 表示領域に反映されていることを確認してから、編集を行ってください。

_			-							
ţ	Handy T	erminal	Font for	n conver	sion Tool					×
Display Font: Gaiji 12*12dot 💌										
	- GA	Gi.	6a iji	6a iji	G1	G3. iji	G1	6ª	Ga. iji	~
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	≡
	- Fji	<u>5</u>	Ga iji	6a iji	<u> G</u> a	<u> G</u>	<u> G</u>	Ga. iji	Ga. iji	
	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
	- Fji	63. iji	63. 1)1	Ga.	Ga iji	Ga iji	Ga iji	63. iji	Ga. iji	
	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
	- GA	Ga. iji	Ga.	Ga.	Ga.	Ga.	Ga.	Ga.	Ga. iji	
	28	29	30	31	32	33	34	35	36	~
					C	onversion		mport	Cano	el

4.2. LMWIN

4.2.1. 機能

アップダウンロードユーティリティソフトウェアは、以下の機能を実行することができます。

- 1. ホストPCとHT間のファイルの送信、受信
- 2. 各種コマンドの実行(ブザー鳴動、フォーマット)
- 3. ホスト PC 上でのスクリプトファイル実行
- 4. USB または RS-232C 接続による通信機能

また、ホストPC とHT 間の以下にあげる15 のコマンド機能があります。

- 1. ファイル送信
- 2. ファイル受信
- 3. ファイル追加送信
- 4. ファイル追加受信
- 5. ブザー鳴動
- 6. フォーマット
- 7. 日時設定
- 8. 削除
- 9. 移動/名前変更
- 10. ディスク情報取得
- 11. ファイル情報取得
- 12. ファイル情報設定
- 13. セッション終了
- 14. 子プロセス実行
- 15. 文字列表示

4.2.2. 使用方法

(1) 起動方法

インストールしたディレクトリ内の LMWIN32.EXE を実行してください。

(2) メインメニュー

以下の画面を表示します。4 つのメニューがメニューバーにあります。

- スクリプト :スクリプトメニューが表示されます 環境設定 :環境設定メニューが表示されます
- 実行:通信メニューが表示されます

ヘルプ :ヘルプ画面へ

Pップダウンロードユーティリティ	
スクリブト(S) 環境設定(C) 実行(E) ヘルプ(H)	
For Help, press F1 97/	09/09 20:38:06 //

(3) スクリプトメニュー

スクリプトメニューには下記のプルダウンサブメニューがあります。

新規作成	:新しいスクリプトファイルを作成します。
開く	:既存のスクリプトファイルを開き、編集します。
印刷	:スクリプトファイルを印刷。現在は実行できません。
終了	:アップダウンロードユーティリティを終了します。

書 アップダ	ウンロードユーき	コリティ	
	環境設定(C)	実行(E) ヘルプ(H)	
新規作成	(<u>N</u>) Otrl=N		
開((<u>o</u>)	Ctrl=0		
印刷(<u>P</u>)	Ctrl=P		
終了⊗	Esc		
I			
Creates a ne	ew script file	97/09/09	20:40:17 //
(4) スクリプトファイル新規作成 「新規作成」サブメニューオプショ

新規作成」サブメニュー	オプションを選択すると、下の画面になります。
追加	:コマンドを「スクリプト」に追加します
結合	:前のスクリプトコマンドに結合します
戻る	:メイン画面に戻ります スクリプトファイルのセーブはしません
保存	:スクリプトファイルを上書き保存します
名前を付けて保存	:名前を付けて保存します
参照	:HT に送るファイルを選択できます

新規スクリ	プトファイル					×
771N(<u>F</u>)	編集(E)					
בעדב גיאלא	Send	▼ サイズ 0	日付 1997-09-09 時刻 20:48:25	居性 「 隠し 「 アーカイブ [*]	 □ 書込禁止 □ システム, 	Options 回 強制上書き 回 デルク州付き
ファイル						
C:¥DA	TA¥970811.	dat [″]			<u>^</u>	参照(B)
格納ディ	1JJIJ					
a:¥data	I					
Script		追加(A)	結合(<u>C</u>)			
					A	保存(S)
						名前を付けて保存♡
					V	戻る⊗

(5) スクリプトファイルを開く

スクリプト選択画面でスクリプトファイルを選択すると次の画面になります。

5	アァイルを開く					? ×
	ファイルの場所①:	🔄 Script	•	E e	8-6- 8-8- 8-6-	
	🗿 地域Aデー如L.S	CR				
	I 目報scr					
	ファイル名(N):				閱(の)	
					1917	-
	ファイルレン作業実具に上た	SCR Files (#.scr)			キャンセル	

スクリプト選択画面でスクリプトファイルを選択すると次の画面になります。

E:¥Imwin¥S	oript¥日報scr	×
771N(E)	編集(E)	
אעדב גאפאל	Send ■ 日付 1997-09-10 馬性 A: ▼ サイズ 0 時刻 16:27:48 ■ 隠し ■ 書込禁止	Options □ 強制上書き □ ディルクドリ付き □ 日付更新
ファイル		
		参照(B)
格納ディ	UNU	
Script	追加(A) 結合(C)	
/s ~́Е.¥ /в	rv¥0000¥dnmnsht.xls [‴] o:¥data¥sht¥	【保存⑤】 名前を付けて保存○ 戻る∞

「スクリプトファイル」に選択したスクリプトファイルの内容が記述されます。

(6) 環境設定メニュー 環境設定メニューには以	下のプルダウンサブメニューがあります。
RS-232C	:RS-232C で通信します
SCSI	:SCSI で通信します
TCP/IP	:TCP/IP で通信します
TCP/IP(New)	:TCP/IP で通信します
B.S/B.B(IO BOX)	:B.S/B.B I/O BOX を介して通信します

📲 アップダウンロードユーティリティ	_ 🗆 🗵
スクリプト(S) <mark>環境設定(C)</mark> 実行(E) ヘルプ(H)	
▲ ▲ BS-232-C Sosi 3000	
標準として設定(D) Ctrl-F	
通信設定(E) Ctrl-G	
Select RS-232-C 97/0	09/10 16:35:55 //

ここでは、例として次のように設定しています。

COM ポート	:COM1
ボーレート	:57600BPS
パリティ	:なし
ストップビット	:1ビット
データ長	:8ビット

RS232C			
COM ホ [*] ーレート(<u>B</u>) ハツティ(COM1 57600 NONE	ストッフアビット データビット(1 • 8 •
作業ディレクトリ ログディレクトリ	e:¥lmwin¥script e:¥lmwin¥udu32_2.log		
	ок	キャンセル	標準として設定

(8) 実行

実行メニューには下記のプルダウンサブメニューがあります。

「接続」→「開始」サブメニューは HT からのコマンド受け付け状態になります。

「コマンド」サブメニューはコマンド実行画面を表示します。

「スクリプト」サブメニューは実行スクリプト選択画面を表示します。

「中断」サブメニューは通信中に選択でき、通信を中断します。

スクリブトS) 環境設定(C) 実行(E) ヘルプ(H)	
登録 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	
1	97/09/10 16:51:15

×

サーバーモードを開始することにより通信を初期化して、HT から来る接続要求の受け付け状態へアプウ ダウンロードユーティリティを移行させます。

🛂 アップダウンロードユーティリティ	
zyJプトS) 環境設定(2) 実行(E) ヘルブ(H)	
For Help, press F1	97/09/08 21:15:30 //

(9) LMWIN コマンド

コマンド画面では1種類のコマンドを実行することができます。

コマンド実行時はモード設定を行なうことができ、1回モードが選択されると、HT との通信接続は切り離しません。

また、連続モードが選択されると、「**中断**」サブメニューが選択されるまで繰り返し実行します。 デフォルト は連続モードです。

通信コマント					_ 🗆 🗙
אלקב 1547 היקאב	Send V A: V ザバズ O	日付 1997-09-10 時刻 16:57:17	届性 ■ 隠し ■ アーカイフ [*]	 ■ 書込み禁止 ■ システム 	オプジョン □ 強制上書き □ デルクド/付き □ 日付更新
水油デル	5ku		A	参照(<u>B</u>)	モード ● 1回 ● 連続
	/17			ОК	キャンセル

(10) スクリプト実行

スクリプト選択画面では1種類のスクリプトを選択できます。 選択したスクリプトを実行します。

実行スクリ	プトファイル選択	×
選択	<mark>地域Aテ^s—匆L.SCR</mark> 日報Sor	モード ○ 1回 ● 連続
	ОК キ ャンセル	J

(11) インストール

DT-930を1/Oボックスに載せて、次の手順でDT-930本体側のインストール準備を行い、インストールを開始します。

- 1. 「S」キーと「.」キーを押しながら電源をオンします(システムニュー起動)。
- 2. 「4」キーを押します(「4:テンソウ」メニューが起動)。
- 5:プロトコル」を設定します。
 FLINKを選択します。
- (6:ポート」を設定します。
 I/O ボックス経由に設定します。
- 5. 「**7: ソクド**」を設定します。 PC 側、I/O ボックスの設定に合わせて通信速度を設定します。
- 「4:ユーティリティ」を選択します。
 「4」キーを押すと「ユーティリティ」メニューが表示されます。
- 7. 「1:ファイルジュシン」を選択します。

以上で通信待機状態になります。

PC 側が起動していれば通信が開始されます。

ダウンロード完了後は「CLR」キーを押して、「システムメニュー」のトップページに戻り、「1:AP キドウ」を行うと、アプリケーションプログラムが起動します。

4.3. MultiDrop

4.3.1. 機能

アップダウンロードシステムは、HT本体とホストPCの間で以下の業務を行えることを目的としています。

アプリケーションインストール	:ホスト PC から HT 本体にアプリケーションをインストール
ファイル送信	:ホストPC 上のファイル(データ)を HT 本体に送信
ファイル受信	:HT 本体上のファイル(データ)をホストPC にて受信

4.3.2. 使用方法

(1) 起動方法

インストールしたディレクトリ内の MULTI32J.EXE を実行してください。

(2) 基本画面

基本画面は、ホストユーティリティ起動時に最初に表示される画面です。 環境設定、通信実行、バージョン表示を選択します。

MULTIDROP			_ 🗆 🗙
環境設定(E)	通信実行(R)	バージョン情報	

(2) 環境設定画面

環境設定画面はメニューバーの環境設定をクリックすることにより表示します。

A MULTIDROP	
環境設定(F)通信実行(R)	バージョン情報
運用設定	
ファイル設定	
通信設定	
アイコン化して通信	
MULTIDEOPの終了公	

(3) ファイル設定画面

ファイル設定メニューは、環境設定メニューでファイル設定を選択することにより表示します。 この画面でファイル格納ディレクトリの設定、送信ファイル種別の設定値の確認および変更、およびアペ ンドモードの設定を行います。

🔔 ファイル設定	
アプリケーション格納ディレクトリ C:¥DT930¥AP	ОК
受信データ格納ディレクトリ C:¥DT930¥REC	+r>th
送信データ格納ディレクトリ C:¥DT930¥SEND	_
送信ファイル種別 すべてのファイル	● □ アペンドモード

(4) 通信設定画面

通信設定メニューは環境設定メニューで通信設定を選択することにより表示します。 この画面で通信速度、データ長、パリティ、ストップビットの設定値の確認、および変更を行います。 通信スピードを以下の5つより選択します。

- •1200BPS
- •2400BPS
- •4800BPS
- •9600BPS
- •19200BPS

<u>』</u> 通信設定			×
通信スピード 19200BPS <u>・</u>	バリティー なし	•	ОК
データ長 8ビット	ストップビット 1ビット	•	キャンセル
回線番号(COMポート) COMO			

(5) 通信実行画面

通信実行画面は、基本画面で通信実行を選択することにより表示する通信実行中画面です。 通信実行中は、その処理フェイズによって、ポーリング中と通信中の2種類があります。

ポーリング中の画面

	_ 🗆 🗵
境境設定(E)通信実行(R)ハーション情報	
ステーダス:ホーリング	
処理種別 :	
接続HTID:	
通信中断	

通信中の画面

MULTIDROP 環境設定(E) 通信実行(E) バージョン情報	
ステータス:ボーリング 処理種別 : 接続HT I D:	接続IT一覧 &&&&&
ファイル名 SSAPMAIN. MOT 30%	
エラー情報 &&&&&&: 受信タイムアウトエラー	
通信中断	白:通信待ち 青:正常終了 赤:エラー終了

(6) システムメニュー画面

HT ユーティリティを操作するには、最初にシステムメニューを起動しなければなりません。 システムメニューが起動すると、次のようなメニューを表示します。

メニュー	
1:APキドウ	
2:モードセット	
3:ヒヅケ/ジコク	
4:テンソウ	
5:バージョン	

「4:テンソウ」を選択してください。

(7) 転送メニュー画面

テンソウ
1 : ドウホウインストール
2:APインストール
3:コキサクセイ
4:ユーティリティ
6:ポート SIR
7 :

「2:AP インストール」を選択してください。

カシオ計算機お問い合わせ窓口

製品に関する最新情報

●製品サポートサイト(カシオペア・ハンディターミナル)

http://casio.jp/support/pa/

製品の取扱い方法のお問い合わせ

●情報機器コールセンター



カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2 TEL 03-5334-4638(代)